

富士吉田地域について

“富士の麓での学び”

富士吉田教育部 刑部 慶太郎

富士吉田の歴史は富士山の自然と人々の信仰の文化で成り立ってきた地域といえます。昭和大学富士吉田キャンパスの周辺も森に囲まれており、鹿や雉が見られたと喜ぶ学生も多く、自然の動植物が身近に感じられる良い機会となっていると思います。しかし元々は富士山の火山灰と溶岩流が重なった荒地に時間をかけて育ってきた森でもあり、自然の変化を感じられる場所でもあります。また、一年中富士山からの豊富できれいな伏流水に恵まれていますが、火山灰が多く稲作に適した土地が少なかったこともほうとうやうどんなど麦の麺類が名物となった一因と言われています。

多くの人が富士山と五重塔が写った富士吉田の写真を見たことがあるのではないのでしょうか。日本の代表的な景色として挙げられる機会も多いあの風景は、下吉田の新倉山からの眺めで、新入生の入学時期には桜も見ごろを迎えます。吉田は一見田舎の小さい町に見えますが、江戸東京はじめ全国から、現在は世界中から訪れる多くの人々を迎えてきた土地でもあります。2013年には富士山が信仰の対象と芸術の源泉としてユネスコの世界文化遺産に登録され、この地域にも構成資産となる神社や富士講信者を迎えてきた御師の家などの史跡が、今もその役割を担いながら登録されています。

昭和大学の富士吉田校舎と学生寮も設立から50年を過ぎ、地域の病院や施設にも地域医療を学ぶ実習などでお世話になる機会があります。学生の皆さんにも一年間の生活と学びにおける様々な機会を通じて、大きな富士山と富士吉田に第二の故郷として親しみを持ってほしいと思います。

SI活動について

スチューデントインストラクター

保健医療学部看護学科 奥蘭 怜 (真和高等学校出身)

昭和大学では、スチューデントインストラクター（通称SI）というボランティア活動が行われています。講演会の会場スタッフや福祉施設で開催されるイベントのお手伝い、地域の子どもの学習支援を行う大学生スタッフなど、活動は多岐にわたります。講演会では会場のスタッフとして働くだけでなく、貴重なお話を聞くことができ、地域の子どもの学習支援や福祉施設での活動では、普段は関わる機会が少ない障りを持った方や子どもたちと接することができました。地域の幅広い世代の方々と交流することを通して、地域の魅力を知る機会になりました。

このように、SIの活動では普段の学校生活とは異なる経験をたくさん得ることができ、活動を通してそれまで関わりの少なかった友達や先生との関係を築くこともできました。活動一つ一つが貴重な経験となったので、今後も積極的に参加していきたいと思っています。



ボランティアについて

山梨赤十字病院を訪れて

薬学部薬学科 村崎 帆乃香 (真和高等学校出身)

校内のイルミネーションが綺麗に輝いていた12月のはじめ、私はMedical All Stars Jazz Orchestraの部員として、クリスマスコンサートの機会をいただき山梨赤十字病院を訪れました。私たちは、院内に集まった患者さんやご家族、医師や看護師の方々の前でクリスマスソングを数曲披露しました。子供からお年寄りまで年齢層は様々でしたが、演奏中には手拍子、演奏後には拍手をいただき、会場は笑顔で包まれていました。

今回の活動を通して感じたのは、将来患者さんを笑顔にするために何かできないか考えられる医療人になりたいということでした。医療人として、人として、心がほっこりするような小さなことでも、今回の活動のようなイベントでも人を笑顔にできることを探していきたいと思いました。また、山梨赤十字病院をはじめとする多くの人の協力があったてきた企画だと思うので、関わっていただいた方々へ感謝したいと思います。

皆さんも何か自分にできることを見つけて、ボランティア活動などに参加してみませんか。きっと教科書からは得られない、実際に体験することならではの学びがあると思います。



国際交流について

毎日が初めてのポートランド

保健医療学部看護学科 武藤 優花 (横浜女学院高等学校出身)

2018年8月2～26日まで、米オレゴン州のポートランド州立大学での国際交流プログラムに参加しました。全学部の1年生から31名が参加し、二週間のホームステイと10日間の学生寮生活を体験しました。

私は、このプログラムを通じ、多くの学びと経験を得ることができたと感じています。そして、“初体験”が最大の魅力だと思っています。一人きりでのホームステイ、日本とは異なる医療施設の見学、映画のワンシーンに出てくるような峡谷でのラフティングや地元スーパーでの買い物など、さまざまな“初めて”を体験しました。さらに、プログラムで出会えた大切な仲間や、今でも連絡を取り合えるホストマザーとの出会いは大きな宝物です。

プログラム参加前は、英会話に自信もなくホームステイ大丈夫かな?などの不安もありましたが、今では挑戦して本当によかったと感じています。大学生になりたいま、皆さんも新しいことにチャレンジしてみたいかでしょうか?



白樺百合

昭和大学
富士吉田キャンパスだより
第34号 2019.4.12発行

発行責任者 富士吉田教育部長 倉田知光
編集責任者 富士吉田教育部広報委員長 田中周一
〒403-0005 山梨県富士吉田市上吉田 4562
TEL 0555-22-4403



富士吉田教育部 前田昌子 撮影

新入生の皆さんを歓迎いたします

学校法人昭和大学 理事長 小口 勝司

新入生の皆さんご入学おめでとうございます。この富士吉田校舎での全寮制教育は医系総合大学である本学における特色であり、医学部、歯学部、薬学部、保健医療学部の4学部の学生が共同して衣食住をともにします。共同生活を送ることで相手を思いやる心を育み、学部間交流を積極的に行い、意見交換の場としていただきたいと思っています。将来を担う人間性豊かな医療人となることを念頭に切磋琢磨する皆さんの努力は必ず実を結び、自身の糧となります。この経験がチーム医療の根底を学ぶよい体験となることを心よりお祈り申し上げます。

昨年、本学は創立90年目を迎えました。創立者である上條秀介博士が掲げた「至誠一貫」の建学の精神のもと、社会に貢献する優れた医療人を育成してまいりました。昭和39年昭和大学富士吉田校舎を竣工して以来、この地に根づき平成27年には富士吉田市と地域の課題解決および活力ある個性豊かな地域社会の形成・発展に寄与することを目的とした「包括的連携協力に関する協定」を締結し友好な関係を築いております。平成28年には学生教育ならびに様々な競技大会を催すことができる富士吉田スクエアガーデンを竣工いたしました。

また、「富士吉田キャンパス温泉エネルギー活用プロジェクト」に基づき、省エネルギー対策の一環として掘削を行っていた「昭和大学温泉」の掘削工事が昨年無事完了しました。エコキャンパスの実現に向けて計画を進めて参ります。

本法人は盤石な財政基盤のもと、常に最新の設備で最高の教育を提供して参ります。ご父母の皆様におかれましても、ご理解ご協力をいただき共にお子様を医療人として大きく成長していく姿を見守っていただきたく存じます。

最後になりましたが、富士吉田校舎の教職員、皆さんのご家族の協力のもと富士吉田校舎における新生活がスタートできますことを感謝申し上げてご挨拶とさせていただきます。

新たなスタートラインに立つ皆さんへ

昭和大学富士吉田教育部長 倉田 知光

1年生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんの入学、入寮を富士吉田校舎教職員一同心から歓迎いたします。皆さんが辿り着いたこのキャンパスは、本学の建学の精神である「至誠一貫」を体現し、真心をもって精一杯尽くせる医療人を育成するスタートラインです。

本学が50年以上に渡って行っている学部連携の全寮制度は、単に、学生に住居を提供するという目的ではなく、医療人として必要な他者を慮る気持ちを養い、常に助け合い、協力し合いながら病める人、他者に真心をもって尽くす、真の医療人としての資質を養う目的で行っています。今まで、自分だけの空間、環境を与えられて育ってきた個人が4人一部屋の空間で生活するわけですから、これまでの常識は全く通用しません。私も40年前に赤松寮に入寮しました。毎日新鮮で充実した日々でしたが、時にぶつかりあい、一晩中言い争ったこともあります。しかし、こういった衝突も何度か繰り返していくうちに、自然と互いに思いやる心、他者優先の心が育まれ、いさかいやトラブルも自然と収束し、高い社会性を持った社会人、医療人に成長できていたことを後になって強く感じました。

ここ富士吉田校舎での1年間の寮生活は、専門的知識や技能を修得するだけではなく、皆さんを身心共に成長させてくれることと確信しています。1年間というわずかな時間ですが、二度と経験できない大切な時間です。学習はもとよりクラブ活動、地域交流等多くの事にチャレンジしてください。1年後の皆さんの成長を心より期待します。

広報誌名称について

全寮制を特徴とする富士吉田校舎学生寮は「白樺寮(男子寮)」「百合寮(女子寮)」の二寮からスタートしました。「赤松寮」「すみれ寮」を加えて四寮となった現在も、白樺・百合という名称は受け継がれています。この名を冠した「白樺・百合」という広報誌の名称には、過去・現在・未来の学生たちが日々ごとに成長をとり進みつつも、常に初心を忘れず、伝統を受け継いでくれることへの願いが込められています。

大学では学生の国際交流を推進するため、海外実習・研修補助制度を設けて積極的に支援しています。

講義について

初年次からの充実した教育

医学部医学科 横江 美紅 (桜蔭高等学校出身)

1年次で全寮制が敷かれている昭和大学では、富士吉田キャンパスにおいて実践的な教育が行われています。四学部合同の講義と学部ごとの講義が組み合わさったカリキュラムが組まれており、学部を越えた交流や広い視野と同時に、学部ごとの専門性をも身につけることができます。特に、四学部合同の講義は、将来医療人として働くうえでも特に重要になってくるコミュニケーション能力を体得できる「ヒューマン コミュニケーション」の授業や「地域医療入門」などが特徴的です。どの講義も初年次から学部によらない対等な関係性を築くことができるだけでなく、将来働く上で土台となるような人間性の育成にも力を入れています。

大学で勉強する際に大切なのは自己管理能力と積極性だと思います。仲間と協力しながらも、周りに振り回されることなく、きちんと勉強する習慣をつけることが大切です。また、疑問点などは積極的に先生に質問に行き理解を深めましょう。充実した大学生活にしてください。



実習について

実りある多彩な実習

医学部医学科 村田 理子 (東洋英和女学院高等部出身)



一年次には、実験を行う実習や解剖やスケッチの実習、そして初年次体験実習など、多様な内容の実習を行います。

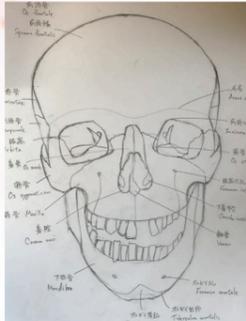
前期の入門実習は、4学部合同の班で行います。それぞれの学

生が知識を出しあって実験を進め、結果をまとめる貴重な機会です。

学部ごとの実習ではやや専門的な内容を扱います。医学部の場合、全身の骨をスケッチする骨学実習や、カエル・ラットの解剖などがあり、基礎知識を実践的に学びます。また、医学部での漢方薬調製など、学部によっては今後触れる機会が少なくなる分野の実習もあり、学部の枠にとらわれずに多くの分野への理解を深めることができます。

夏休み明けすぐの様々な内容が含まれている初年次体験実習では、他学部の学生と共に成長でき、学習へのモチベーションも高まります。

自分の手で作業していくなかで大変なこともあります。どの実習でも学ぶことは非常に多岐にわたります。座学の講義とはひと味違う授業を通して、自分の成長を楽しんでください。



学生会について

自ら作る学生生活

医学部医学科 三尾 紀香 (昭和女子大学附属昭和高等学校)

富士吉田の生活は学生が主体となっています。高校時代に生徒会があったように、富士吉田校舎にも学生会があります。例えば中央委員会とよばれる組織は中央委員長、寮長、代議員、部活動代表学生で構成され、月に一度会議を開き、寮生活の改善点について話し合います。生活している私たち自身で意見を出し、話し合っていくことで寮生活をより充実させ、快適に過ごしていけるようにします。また富士吉田では寮祭やクリスマスパーティが行われますが、これらのイベントも学生が一から企画し、実行していきます。その際に学生会も中心となって活動します。立候補した実行委員長のもと、予算や環境整備等を検討し、イベントを安全に行えるよう配慮しながら、学生たちの良い思い出となるように努めます。

学生会は学生が富士吉田での生活を快適に楽しく過ごすために必要な責任ある組織です。ぜひ学生会の一員に立候補して仲間とともに富士吉田での寮生活を作り上げていってください!



寮生活について

学部を超えた絆

歯学部歯学科 近藤 洋太 (湘南学園高等学校出身)



みなさまご入学おめでとうございます。これから始まる寮生活について、期待している方もいる

かもしれませんが、大半の方は富士吉田での寮生活が具体的に想像できず不安であると思います。しかし、この一年間は学部の枠を越えて共同生活を送るというなかなか他大学では経験できない環境下で共に学び、互いに理解し合え、協力できる資質・能力を育むことができます。

放課後には部活動もあり、体を動かしたり買い物に出かけたりそれぞれのキャンパスライフを満喫します。楽しんだ後は、食堂で夕食を食べてさらに絆を深める時間となっています。食事のあとは寮内で部屋の友人などと語りあったり、共に切磋琢磨しながら勉強したり、とても充実した時間を過ごすことができます。また、大きなイベントもあり、前期には寮祭、後期はクリスマスパーティーなどがあります。この二つは寮生活を語るうえでは欠かせない思い出となるので、皆さん全力で楽しみながら取り組んでほしいと思います。仲間を大切に昭和大学独特の寮生活を一年間楽しんでください。

イベントについて

イベントで青春を味わおう!

保健医療学部理学療法学科 石田 里菜 (茨城県立牛久栄進高等学校出身)



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます! 待ちに待った大学生活1年目は寮生活ということで、期待と不安に溢れていると思います。皆さんは寮生活とくくどのような生活を想像しますか? 富士吉田での寮生活は、皆さんが今、想像している以上のものとなるでしょう。ここで

しか味わうことのできない青春を思う存分味わっててください!

そんな吉田での青春をつくるものとして大きいのが、様々な行事です。学生主体となって企画や運営を行う寮祭やクリスマスパーティーなどがあります。そしてその行事に深く関わることとなるのが、イベント部門です。自分たちで考え、企画したものでみんなが笑顔となり、この青春が一生の思い出となる。なんて、聞いただけでも楽しそうじゃありませんか!?

たくさんの人と関わり、多くの経験を吉田での寮生活ならではの行事です。ぜひイベント部門委員になって青春の1ページをつくってみてください。

これからの10か月間に大いに期待して過ごしてください!

部活動について

新生活と部活動

薬学部薬学科 河野 太郎 (高輪高等学校出身)



昭和大学には運動部、文化部共に数多く存在しています。部活動(部活)1つ1つに代表者がいて運動部をまとめる「体連部長」と、文化部をまとめる「文連部長」がいます。代表者は部活の運営を行い、要望を体連部長、文連部長に伝えます。私は1年間、体連部長を務めました。体連部長と文連部長は学生の自治組織である中央委員会に所属することになります。月に一度の合同委員会に出席して先生方に各部活の代表者からもらった要望を伝えたり、先生方からの連絡を代表者に伝えたりします。そのほか、代表者は部室の鍵を預かり部室の管理を行ったり、一部の代表者は部活で用いた施設の戸締りも任せられたりするので責任のある立場になりますが、とてもやりがいがあります。

1年生の間は多くの方が2つ以上の部活に所属しています。部活に所属することで違う学部の人と交流したり、先輩から昭和大学の話を聞いたりすることができます。部活に参加することでより楽しい学校生活を過ごすことができます。是非部活に参加してください。

コンパについて

"皆で学ぶこと"の意義

歯学部歯学科 三村 かなめ (浦和明の星女子高等学校出身)



富士吉田の寮は、1部屋4名構成で、4学部の学生がランダムに選ばれます。これを部屋メンといい、入学してから最初に言葉を交わす仲間となります。また、男子寮、女子寮からそれぞれ2~3部屋ごとに選ばれ、計16人から24人で構成されるグループをコンパといいます。このコンパごとのつながりも重要となります。この部屋メンとコンパについて、学習面、生活面の二つの側面からご紹介したいと思います。

まず、勉強面です。1年次の勉強は教養科目が多く、高校での履修科目が影響しやすいです。このようなとき、コンパの同学部生同士や部屋メン同士で、わからないところをお互いに教え合うことができます。私の場合、少し余裕がある時は皆と一緒に楽しく勉強し、集中したい時は図書館を利用していました。根を詰め過ぎず、楽しくメリハリをつけながらの学習は、とても効率が良かったと感じます。

次に、交流面です。部屋メンとの交流の機会は主に毎日の食事、平日は外食に行ったり、休日は富士急ハイランドなどに遊びに行ったりする部屋メンもありました。コンパメンとの交流の機会は主に、フレッシュマンセミナー、寮祭などのイベントであり、慰労会や観光などもします。私達のコンパでは、夏には花火やバーベキュー、冬にはほうとう作りをしました。

全寮制という特殊な環境を、いかに有意義に、意味あるものにするかは、部屋やコンパでの活動も大きく関わります。自分と合う人だけではなく、様々な人と出会い、悩み、考えることこそ、1年次に皆で学ぶことの意義だと思います。価値観の違いなど、戸惑う機会もあるかと思いますが、どうか一期一会を大切にしてください。皆様の1年が素敵なものになるよう心より祈っております。

※フレッシュマンセミナー 昭和大学の特徴のひとつである指導担任制度を活かした必修授業。